



# 幸福実現NEWS

THE HAPPINESS REALIZATION NEWS [党員限定版] 第51号

政界に波紋を呼ぶ、小泉純一郎元首相の「原発即ゼロ」発言——。政局絡みの展開も予想されますが国家の根幹にかかわるエネルギー問題を政争の具とすべきではありません。

## 「原発即ゼロ」は無責任 幸福実現党は、未来を見据え

# 原発推進

小 泉氏の論は原発ゼロを訴える一方、その代替策については、「必ず知恵のある人がいい案を作ってくれる」と語るなど電源構成の具体論を欠き、現実味に乏しいと言わざるを得ません。

国民生活や産業・雇用を守るには、安定的な電力供給が欠かせません。原発停止は来年4月からの消費増税とともに、回復途上にある日本経済の大きな足かせとなっています。そこで、幸福実現党は日本を守るために、原発の再稼働・推進を訴えます。

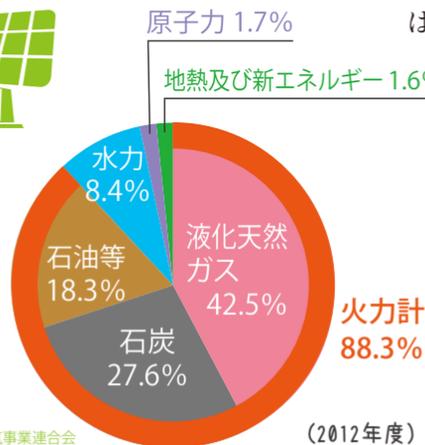
## 日本が 原発を推進すべき

### 5つの理由



## 02 再生可能エネルギーでは原子力の代替不可

クリーンなエネルギーとして期待を集める太陽光や風力は、コストが高い上に、発電量が天候に左右されるため、基幹エネルギーにはなりません。出力が不安定な再生可能エネルギーの比率を高めるのであれば、停電リスクに備え、火力発電によるバックアップも必要となります。



日本の電源別発電電力量構成比  
(注) 10 電力計、他社受電分を含む。石油等にはLPG、その他ガスを含む。四捨五入の関係により構成比の合計が100%にならない場合がある。

## 01 安価で安定的な電力供給のためには原発が必要

原発停止を受けて火力発電所がフル稼働していますが、これに伴い追加燃料費として、年間3.6兆円(一日当たり100億円)もの国富が海外に流出しています。電気料金の値上げにより、家計や企業負担は増加するばかり。日本経済の先行きが危ぶまれます。



## 03 原子力はエネルギー安全保障の要

日本は化石燃料の大半を中東からの輸入に頼っていますが、中東有事となれば、液化天然ガス(LNG)や原油価格が高騰したり、輸入が途絶えるリスクがあります。火力発電への依存度を高めると、エネルギー供給は危うくなります。

## 04 最先端の原発技術で世界を豊かに

経済発展著しい新興国では、エネルギー需要を賄うために安価な石炭火力への依存が高まっていますが、大気汚染による健康被害が懸念されます。日本は最先端の原発技術を提供することで、安価で安定的な電力供給に貢献し、世界の人々の生活水準の向上に努めるべきです。



## 05 中国と北朝鮮から日本を守る

隣国に核保有国を抱える日本としては、原発を稼働させること自体が潜在的な核抑止力として機能します。





# Bunko Kato Interview

2013年の締めくくりにあたり  
加藤文康幹事長に、本年の総括と来年以降の  
幸福実現党の展望について聞きました。

## 幸福実現革命の 最前線で

幹事長  
加藤 文康

<http://kato-bunko.com/>

1962年、東京都生まれ。東京大学法学部卒業後、日本電信電話株式会社(NTT)、神奈川県財政課勤務を経て、90年、宗教法人幸福の科学に入局。専務理事などを歴任。幸福実現党に入党後、幹事長代理、総務会長などを経て、2013年7月より現職。

### — 2013年を振り返っての所感を

何と言っても今年は参議院選挙に尽きます。猛暑の中、活動してくださいました党員の皆様に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。また、力不足もあり、議席獲得に至りませんでした。深くお詫び申し上げます。しかしながら、次につながる教訓は着実に得ていると思います。

### — 昨年の総選挙に続き参院選でも安倍首相率いる自民が圧勝しましたが、安倍政権についてはいかがでしょうか

民主党よりマトモなのは間違いないですね。民主党政権の3年間は、もう思い出したくない3年間ではなかったでしょうか。

一方、安倍首相は、日米同盟の再構築やアベノミクスによる株価上昇など、着実に手を打っていると言えますし、そこは率直に評価できます。ただ、来年4月からの消費増税決断や靖国参拝の見送りなど、決定的な間違いも犯しています。その政治手法については、うーん、どうでしょうか。「決断型の指導者」というよりは、連立相手の公明党や既得権益に配慮した、政権の延命を第一とする「調整型の指導者」に近いという感じがしております。

### — 2014年の展望を

2020年のゴールデン・エイジ、日本の黄金時代を築くための新たなスタートの年ですね。大川隆法総裁は経典『黄金の法』で、「西暦二〇二〇年頃から二〇三七年頃にかけて、日本は現代のエルサレムとなり、世界のメッカとなるはずですよ」と、既に1980年代に予言されていますが、2020年の東京オリンピック開催決定は、日本の地位を高らしむる天佑、大きなチャンスと言えます。一方で、習近平率いる中国が力をつけており、2020年頃には、日本が中国の植民地になる可能性も指摘されている。そんな2つのシナリオがあります。

「日本、危うし」か、それとも約束された黄金時代を迎えるのか——。来年は日本の未来を決定付ける上で、とても重要な一年になると思います。

### — 具体的な取り組みは

来るべき国政選挙に向けて、支持者や党員拡大に腰を据えてじっくりと取り組みます。まず年初には、「日本の誇りを取り戻すキャンペーン」と銘打って、「河野談話」の白紙撤回を政府に求める署名活動等を進めてまいります。また、立党5周年を迎える来年5月を一つの山場として、さまざまな党勢拡大の企画を打っていく予定です。

今、日本に求められているのは神仏の声を受け止めることができる宗教政党です。私は、2009年の立党以来、さまざまな立場で党活動にかかわってまいりましたが、既成政党の限界が露呈し、幸福実現党しか日本の未来は担えないことが明らかになるときが、いよいよ近づいていると確信しています。

皆さん、「継続は力なり」です。霊的価値観に基づいた新たな国づくりのために、来年も日々、着実な一手を指してまいります。

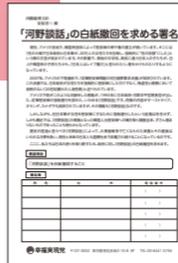
1月

● オスプレイ配備を訴える集会



12月

● 「日本の誇りを取り戻す」キャンペーン開始



4月

● 参院山口補選



5月 ● 憲法記念日一斉街宣  
● 立党4周年記念大会



6月 ● 「2013年6月主要政策」を公表



7月 ● 参院選



## 幸福実現党 2013年 活動の歩み

9月 ● ストップ! 消費増税



8月 ● 大川談話  
● 終戦の日に靖国参拝

